

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 23 日現在

機関番号：32689

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2015

課題番号：24730445

研究課題名(和文) 生殖における女性への帰責とその回避 人工妊娠中絶にみる当事者エージェンシー

研究課題名(英文) The structure of reproductive responsibility for women and relief from that-how to construct abortion agency-

研究代表者

熱田 敬子(ATSUTA, KEIKO)

早稲田大学・総合研究機構・招聘研究員

研究者番号：20612071

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,200,000円

研究成果の概要(和文)：従来、人工妊娠中絶の体験は、妊娠した女性にとって「命」と「赤ちゃん」の喪失の経験だとされ、罪悪感を伴うはずだと考えられてきた。中絶を擁護する側も、批判する側も、この前提自体は共有している。

本研究では、中絶の罪責感自体が歴史的には常に「自然」と捉えられていたわけではないことを先行研究から指摘し、人工妊娠中絶を経験した女性たちとそのパートナー、また対象サンプルとして流産死産を経験した女性たちにインタビューを行った。インタビュー結果からは、中絶経験の捉え方と罪責感、中絶を選択した(させられたけれど、選択を引き受けざるを得ない)という意識や、周囲との関係によって変化することが明らかになった。

研究成果の概要(英文)： Abortion experience might be seen as a loss of "life" and "baby" for women. And women must have feelings of guilty for that. Whether abortion advocates or opponents, all of them shared this idea in Japan.

In this research, I point from previous study, historically this kind of idea had not always been seen as "natural". And I interviewed women who experienced abortion, and their partners. In addition to this, I also interviewed women who experienced misbirth or dead birth for comparison. As a result, feelings of guilty and abortion experience can change by the sense of "choice/make choice" abortion and relationship with surroundings.

研究分野：社会学、ジェンダー

キーワード：人工妊娠中絶 ジェンダー 生殖 インタビュー 自己決定 個人化論 質的調査法 当事者概念

1. 研究開始当初の背景

本研究においては、現代日本において、中絶経験の語りが「女性の(女性のみの)」、トラウマや悲しみのストーリーになりがちなこと注目した。

生殖は、男女がともに関係するにもかかわらず、女性の問題としてのみ語られがちである。これは、女性に生殖に関する自己決定権を与えるとともに、女性に生殖に関する責任を負わせ、男性を免責するとともに、男性を生殖の語りから疎外するという効果がある。中でも、生殖に関する負の経験である人工妊娠中絶の語りについては、この傾向が顕著である。

同時に、社会史の蓄積からは、中絶は歴史的に常にトラウマ的な、女性のみ経験であったわけではないことが明らかになっている。こうした中絶に対する見方は、生殖の医療化・社会の個人化を反映した現代特有のものとするべきである。

2. 研究の目的

中絶は歴史的に見て常にトラウマ的な、女性のみ経験であったわけではない。現代社会での中絶の語りのありようには、生殖の医療化・社会の個人化の特徴が反映されている。

本研究では、中絶経験の語りを通じ、個人化した社会の中での生殖における女性の自己決定と、それと引き換えの女性のみへの生殖の帰責というジレンマを解消する道を探った。

また、死産・流産など、他の生殖の失敗の経験における語りおよび、妊娠継続し、出産に至ったケースの語りとの比較を通じて、生殖に関する語りの特徴と、中絶固有の問題をきりわけようを試みた。中絶においては、女性が主体化されると同時に胎児への加害性が強調される。この傾向は、他の生殖の場面での女性の主体化とどのように関連し、またしていないのかを考えるためである。

自己決定の帰結としての、自己責任の引き受けがおきることは、障害学などにおいても、自己決定の問題とされるジレンマであり、ウルリッヒ・ベックらの言う個人化した社会の中で、より強化される。

本研究では、サンクションを避け、女性への帰責を志向するマスターナラティブに回収されずに中絶を語るレトリックを明らかにすることで、最終的に個人化論への一定の貢献もめざした。

これまで人工妊娠中絶の体験を扱う研究は、水子供養に関する人類学的研究、ケアに関する看護学的研究がある。しかし、これらには、中絶を負の経験とし、胎児と女性の紐帯を前提するものが多い。

本研究では、中絶についての価値判断を行わず、社会的なサンクションの中で中絶を経験した人のエージェンシーがどのように発揮されているかを考察することを目的とした。

3. 研究の方法

本研究においては、中絶経験をした女性、そのパートナーである男性、対象サンプルとしての流産死産を経験した女性に半構造面接法によるインタビューを行った。

インタビューにおいては、事前にインタビュー趣旨の説明を行い、発表の際の匿名化、プライバシーへの配慮、インタビュー中であってもインフォーマントの一存で中断、終了が可能なことを口頭と書面で伝えている。

また、インタビュー後に、全文をテープ起こしたものをお渡しし、確認していただいた後で、データとしての使用についての同意書にサインをいただいた。

質問内容としては、年齢、性別、学歴、職業、居住地などの基本的属性に加えて、中絶経験の詳細、時期、中絶後の性生活や妊娠・出産体験、中絶を契機に周囲の人間との関係

は変化しなかったか、中絶を他者に話した経験があるかどうか、中絶経験を共有する対面/非対面の当事者グループやカウンセリングの利用経験などについて尋ねた。比較対象としておこなう流産・死産・妊娠継続して出産に至った経験のインタビューについては、質問票を個々の文脈において適切な形におきかえた。

また、インタビューの分析とともに、「当事者」概念、自己決定と個人化論、背景となる日本社会のジェンダー状況、インタビュー手法に関する文献リサーチを行い、成果として発表した。

4. 研究成果

(1) 質的研究法への貢献

インタビュー分析、エスノグラフィーの方法論、倫理について、研究を進めながら考察し、書籍『現代エスノグラフィー：新しいフィールドワークの理論と実践（ワードマップ）』（藤田結子・北村文編、熱田敬子他、2013、新曜社）を共著で執筆した他、2013年の日本社会学会 86 回大会において発表した。

(2) 「当事者」概念と個人化論についての考察

近年、社会科学の分野で注目されてきた「当事者」概念は、自己と他者の関係をどのように包摂するかを考えるキーワードになる。

それは、個人化した社会の中で、決定と責任がセットにされる、自己決定概念とは異なる形で、自己に関する決定に関する示唆を与える。この点について、日本社会学会 85 回大会で報告し、前述の書籍『現代エスノグラフィー：新しいフィールドワークの理論と実践（ワードマップ）』（藤田結子・北村文編、熱田敬子他、2013、新曜社）にも、「当事者概念に関する項目を執筆した。

(3) 中絶経験に関するインタビューの収集と分析

中絶経験をした女性、そのパートナーである男性、対象サンプルとしての流産死産を経験した女性に半構造面接法によるインタビューを行った。現在、テープ起こし、フィードバック、データのマトリックス化を行っている。

予定よりやや研究が遅れたものの、近々に成果をまとめ、論文として発表する予定である。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計 2 件)

熱田敬子、2013、「ポジティブ・アクションはなぜ必要か」、『アジェンダ』、42 巻、p.6-15、査読なし

熱田敬子、2013、「<個>を奪う家族、家族を取り込む国家」、『ピープルズ・プラン』、62 巻、p.63-68、査読なし

〔学会発表〕(計 2 件)

熱田敬子、2012 年 11 月 3 日、「当事者研究制度化の方向をめぐる批判的検討」、日本社会学会、北海道札幌市（札幌市、札幌学院大学）

熱田敬子、2013 年 10 月 12 日、「現代エスノグラフィーの理論と実践(3)」、日本社会学会、（東京都、慶應大学）

〔図書〕(計 1 件)

藤田結子・北村文編、熱田敬子他、2013『現代エスノグラフィー：新しいフィールドワークの理論と実践（ワードマップ）』、総ページ数 257 ページ、新曜社

〔産業財産権〕

出願状況（計 0 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

取得状況（計 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

熱田敬子 (ATSUTA KEIKO)

早稲田大学・総合研究機構・招聘研究員

研究者番号：20612071

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：